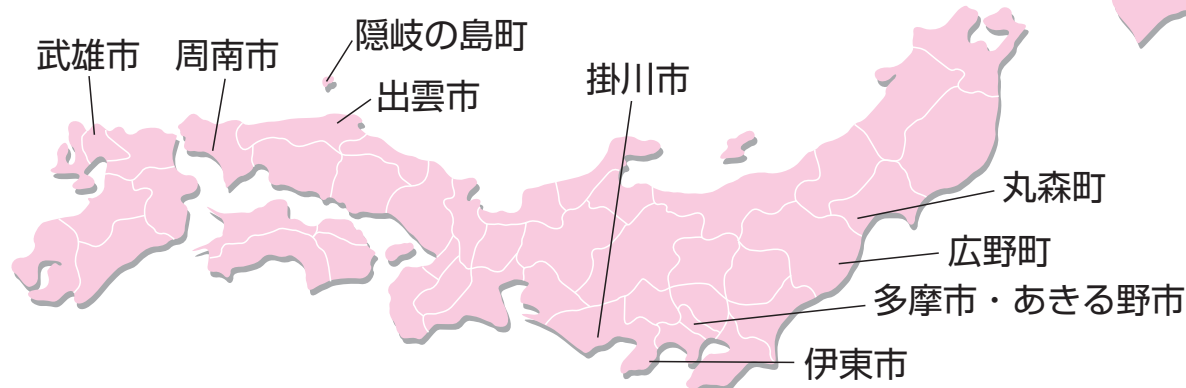


先進地に学ぶ



調査の結果
 出産や子育ての環境が整備されていることが、定住促進の事業を推進する上で大きな柱となり、また、自信をもって事業を推進できる裏付けになっているものと認識させられました。

隠岐の島町は、人口約1万4000人の離島で、合計特殊出生率は常に2.0を超えています。隠岐病院には2人の産婦人科医が常勤しているほか、小児科医も常勤しており、さらにも町内には小児科の開業医が複数存在していました。



総務

独自の定住促進と市長部局に一元化

調査の結果
 栗原市においても、開かれた市政の実現のため、さらに市政情報の公開を進めるとともに、市民の利便性の向上や市民要望等に迅速に対応するためにも、それに応じた行政組織のあり方について、委員会としても調査・研究に取り組む必要があると感じました。

出雲市では当初予算の編成過程において、各課の要求状況と財政部長・市長の査定状況を逐次公表し、財政状況や財政指標等の資料を積極的にホームページで公表しており、開かれた市政の実現に向かっている意識の高さを感じました。また、行政組織においても、市民活動や地域づくりの観点から、スポーツ振興、芸術文化活動、図書館の管理・運営、文化財保護等の事務も市長部局で一元的に所掌し、教育委員会は学校教育に特化して、業務を行っていました。

10/20 ~ 22



調査の結果

栗駒山麓ジオパークの推

伊東市など15自治体で構成する伊豆半島ジオパークは、平成24年に日本ジオパークの認定を受けておりますが、自治体間の温度差の解消や、住民の認知度を高めていく活動などの課題を抱えています。

産業建設

ジオパークの推進 耕作放棄地の解消

調査の結果
 農地は、一度耕作をやめ、数年経過すると荒廃し、その復元は容易ではないことから、耕作放棄地の抑制対策の強化が重要であると考えます。

掛川市は、農業委員による全農地の現況調査を実施するなど、早くから耕作放棄地の解消に向けた体制を整えていました。

耕作放棄地の再生には、官民一体となった地域農業の課題解決に向けた協議の場である「農業活性化やる気塾」と連携を図りながら取り組んでいました。

進には、市民全体の盛り上がりが必要不可欠であり、ビクターセンターの設置をはじめ、二次交通の確保など課題はありますが、防災教育や地域活性化の視点から施策の拡充を望むものであります。

11/10 ~ 12

文教民生

「スマイル学習」と 高齢者の孤独死防止

11/18 ~ 20



を積極的に研究する必要があり
ます。

周南市の「高齢者の孤独死防止事業」を調査した結果、高齢者の独り暮らし世帯では、相談できる人が近くにいないなど、問題を抱えたまま孤立する状況も懸念されていることから「もやいネットセンター」を設置しました。このセンターは、高齢者の生活全般にわたる相談業務を担う総合窓口として設置されました。

調査の結果

武雄市では、生徒がタブレット端末を自宅に持ち帰り、予習を行って授業に臨む「スマイル学習（反転学習）」を行っています。授業では、予習の結果から生徒の理解度が把握できることから、理解できていない生徒に教師が集中して教えることができるということです。

調査の結果

栗原市も学校ICT環境事業を推進していることから、カリキュラムなどの課題を解消するよう努め、次代を担うたくましい子ども
の育成に必要な具体的施策

調査の結果
少子高齢化が顕著な栗原市でも、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを目指し、市民から喜ばれる有効な施策を詳細に検討する必要があります。また、周南市の回天記念館を調査した結果、本市の教育においても、戦争の悲惨さや平和に対する理解をより深めるための研究が必要となります。

議会運営

効率的かつ効果的な 議案審査を目指して

11/ 4 ~ 5



本委員会は、予算、決算特別委員会のさらなる効果的かつ効果的な審査をめざし、2つの事例について調査を行いました。

多摩市議会では、予算と決算の連動を掲げ、予算決算特別委員会において、事業に関する評価をとりまとめ、最終的に議会の評価として決定しています。これを受けて、執行部では、その評価も参考にしながら翌年度の予算編成にあたって
います。

あきる野市議会では、100万円以上の執行残が生じた事業や、新規事業に係る成果など求めながら審査を行っていました。いずれも、議会の有する機能を最大限発揮しながらの取り組み
でした。

調査の結果

栗原市議会では、平成22年度当初予算議案から特別委員会全体での審査に改め、その後も検証を行いながら改善に努めてきました。

二元代表制の一翼を担う議会として、行政運営について監視、評価する立場から、決算審査を通じ、予算にいか
かに反映させていくかが課題であり、さらなる効果的かつ効果的な審査が求められています。
これらの課題解消に向けた調査、研究を重
ねていきます。

広報編集

読みやすく、分かりやすい 「議会だより」を目指して

10/13 ~ 14



クールで優良賞を獲得しており、余白を活かしたレイアウトと簡潔な文章、写真を多用しており、視覚的にも住民が読みたくなるように紙面を工夫していました。
丸森町議会では、全ページカラー印刷で紙面が明るく、目を引く見出しで住民の読む気を誘っていました。

調査の結果

栗原市議会では、9人の委員が原稿の執筆・収集、割付、写真撮影などを行い、議会だよりを発行しています。

議会だよりによって、議会と市政への関心を深めてもらうことを目的に、福島県広野町（ひろのまち）議会および宮城県丸森町（まゐもりまち）議会を訪問し、調査を行いました。

両議会とも、見出しや写真、余白を活用し、住民を引きつける紙面づくりのため創意工夫を凝らしており、今後の栗原市議会だよりの編集に、大いに参考となる有益な調査でした。
今回の調査で学んだ編集技術を参考にし、市民とともに歩む議会を目指して、より一層読みやすく、分かりやすい「議会だより」の紙面づくりに努めて行きたいと思
います。

広野町議会は、平成24年度の全国町村議会広報コン